平成３０年１０月

保護者様・地域の皆様

横浜市立深谷中学校
校長　山本　一恵

全国学力状況調査の結果報告について

４月に実施されました全国学力・学習状況調査の結果の考察がまとまりましたのでご報告いたします。

＜国語＞

	本校平均（正答率％）	全国平均（正答率％）
国語Ａ（主として知識）	73	76
国語Ｂ（主として活用）	57	61

●全国平均と比較すると、Ａ問題が３ポイント、Ｂ問題が４ポイント、正答率が下回った。

１）Ａ問題（主として知識）

・「歴史的仮名遣い」を「現代仮名遣い」に直す問題の正答率が、全国平均に比べ、低い。
・「漢字を書く」問題では、正答率が全国平均に比べて低い。
・「漢字を読む」問題の正答率は、全国平均をわずかに上回っている。

２）Ｂ問題（主として活用）

・「話のあらすじを学級の友達にどのように説明するか書く」問題の正答率が、全国平均に比べ低い。これは「七十字以上百二十字以内で書く」といった長文を書くことに抵抗感があると考える。

◆古典を含む基礎基本を大切にし、知識を定着させる指導を継続していく。
◆日頃から小作文などを取り入れ、書くことに対する抵抗感をなくす。
◆朝読書を大切にし、長文を読んだり、書いたりすることに根気良く取り組める姿勢を育てる。
◆文章の構成や展開に注意して読んだり、要約したりできるよう、授業の中で重点的に指導する。

＜数学＞

	本校平均（正答率％）	全国平均（正答率％）
数学Ａ（主として知識）	55	64
数学Ｂ（主として活用）	41	48

●全国平均と比較すると、Ａ問題が９ポイント、Ｂ問題が７ポイント、正答率が下回った。

１）Ａ問題（主として知識）

・図形領域において、全体的に正答率が低く、各設問について平均して７～８ポイント下回っている。
・表などを利用して確率を求めることができるかどうかをみる問題においては、全国平均を３ポイント程度上回っている。
・一次関数の利用の問題において、全国正答率も低くなっているが、さらに下回り30％に満たない。

２）Ｂ問題（主として活用）

・証明に関する問題や説明を伴う問題に対して、本校の解答状況においては、特に図形に関する問題について条件をしっかりと捉えられていない状況であり、視覚的な情報がなかったり、新しい条件を加え変化したりする問題の正答率が低い傾向がある。

◆全般的に、「知識」の定着がなされていない状況にあり、基礎・基本の徹底とその定着を図ることが重要である。
◆授業に取り組む姿勢はよい状況なので、基礎的な学習が定着するような繰り返しを基本とした指導をしていきながら、活用の場面においては様々な切り口から問題を扱い、多面的に問題を捉える思考力を養いたい。

＜理科＞

	本校平均（正答率％）	全国平均（正答率％）
理科	63	66

●全国平均と比較すると、３．１ポイント平均正答率が下回った。

１）問題に関して

・分野(物理・化学・生物・地学)を問わずに全国平均を下回っている。また、「地学分野」の正答率が最も低い。これは全国の傾向と似ている。
・観点ごとに見ると、「科学的な思考・表現」の観点がもっとも正答率が低い。これも全国の傾向と似ている。
・数問ほど全国平均を上回る正答率の問題もあるが、それらに規則性はない。

２）生徒質問紙に関して

・「理科の勉強は好きですか」、「理科の勉強は大切だと思いますか」などの質問に対して、【当てはまる】などの肯定的な回答した割合はいずれも全国平均を下回っている。理科を苦手とする傾向は全国的にも見られるが、本校はそれがより出ている形である。

◆日頃の授業内容と日常生活で起きている現象を繋げ、より理科に興味関心を持てるように指導をしていきたい。

◆理科に欠かせない「考える力」を養うためにも、基礎学力は欠かせない。その為、日頃の授業内容の復習が重要になってくる。生徒が自宅学習にて復習を行う声掛けを行っていきたい。

＜生活・学習意識調査＞

1. 学習面について

- 余暇の過ごし方について、全国平均と比べるとその時間が長い。その中身としてはテレビを見る時間やネットを利用した時間が多い。
- 家庭学習の時間については、全国平均を上回るほどの時間を確保している生徒がいる一方で、明らかにその時間を確保できていない生徒がいる。学習時間の確保の仕方としては大きく二極化している。日頃の学習状況が数値として明らかになったといえる。
- 自分の考えを口頭で述べたり、文章表記することを苦手と感じている生徒も割合としては数が多い。

2. 生活面について

- 家庭の手伝いについては、全校平均を上回っており、生徒が各家庭において役割を持ち生活をしている様子がわかった。
- 学校の規則を守っていると答えている生徒の割合が、全国平均、県平均よりも少なく、どちらかと言えば守っているという回答の数が多い。
- 地域社会への貢献度として、全校平均よりも地域の活動に参加している生徒の割合は多い。

3. 自己肯定感・友人関係について

- 「友達との約束は守っているか」という設問に対しては、ほぼ全国平均と変わらず 90%を超える生徒が「守っている」と回答している。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対して、約 15%の生徒がそう思わないと回答している。全国的には否定的な回答をしているのは、約 5%にとどまっている。

＜学校としての今後の取組について＞

◆学習面・生活面について

学習面において、日常の授業への取り組みについてはとても前向きではあるが、その授業の内容について、知識や考え方を身に着けるための復習の時間を家庭で確保できている生徒と、そうではない生徒がいる。学習面から自己肯定感を育むためにも、家庭で学習内容の復習ができるような手立てを構築したい。

同時に、家庭での学習状況の確認も含めて、学校での様子を生徒と保護者間で十分に対話や会話ができる環境づくりに協力をお願いしたい。

自己表現をスムーズにするために、まず生徒の思いに耳を傾ける姿勢を大切にし、その上で様々な考え方があることを伝えていけるとよい。

学校規則を遵守することに対して、各家庭の協力をお願いしたい。

◆自己肯定感・友人関係について

自分が役に立っていることを実感することで自分に自信を持たせるために生徒が主体となって活動できる場面をさらに増やしていく。

自分の考えを伝えることに苦手意識を持っている生徒に向けて、授業や学級での活動の時間を活用し、自分の意思を他者に伝える場面を多く設定したい。同様に、様々な考え方に対して寛容でいられる気持ちを育みたい。

＜学校での取り組み＞
日々の授業
自学習ノート
放課後の学習会
学習相談日の設定
試験前の学習会

相互作用で
学力向上

＜家庭での取り組み＞
【生徒】
日々の授業の復習
自学習
【保護者】
学習内容の確認
理解度の確認